

# AIDS UPDATE

No.57 2005.8.17

広島大学病院  
エイズ医療対策室

内線5581（輸血部長室）

Internet: [www.aids-chushi.or.jp](http://www.aids-chushi.or.jp)

## 広島大学病院エイズ講演会

### ～HIV感染妊婦の出産をめぐる～

■ 日本のHIV感染者の増加に伴い、HIV感染妊娠・出産例が各地で経験されるようになりました。厚生省研究班では346例の妊娠例を把握しています。妊婦に対して、①HIVスクリーニング検査、②抗HIV療法、③陣痛発来前の選択的帝王切開、④帝切時のAZT点滴、⑤児へのAZTシロップ服用、⑥児への人工栄養を勧めています。

■ 以前出産例を経験されている広島市立広島市民病院から産科ドクターおよび助産師さんをお招きし、講演会を開催します。関係者のご参加をお待ちしています。

### 《HIV感染妊婦の出産をめぐる》

日時: 2005年9月6日(火) 17:30～19:00

場所: 外来棟3階 大会議室

講師: 伊藤裕徳(広島市民病院産科医師)

三浦智恵(市民病院手術室看護師)

## HIV感染症とその合併症 診断と治療ハンドブック

監修: 木村 哲、編集: 照屋勝治

執筆: ACC&IMCJのスタッフ

● このハンドブックはACCのスタッフにより作成され、厚生省木村班を通じて拠点病院には5部ずつ配布されています。残部がACC照屋先生の方にあるそうで、了解をえてこの記事を作成しました。ご希望があれば、エイズ医療対策室にお問い合わせください。

● バイブル版フルカラーで168ページ、緑色のコート表紙、白衣のポケットに入る大きさです。ということはイメージとしては、「内科レジデントマニュアル」のようなポケットマニュアルです。「あの病気のファーストチョイスの薬は何ミリグラムだったかな?」と思ったとき、他科のドクターから「……ってどうしたら良いのですか?」と聞かれたとき、「これをちょっと見て!」とポケットからヒョイと出して確かめる、みたいな使い方はいかがでしょう。

● ユニークな構成になっています。まずパート1が「参考図表」で、急性感染の症状、CD4数と考えられる疾患、エイズ指標疾患、針刺し事故の対応、薬剤耐性変異・・・、外来で適宜実施すべき検査など、20項目。パート2は「日和見疾患の診断・治療」で、口腔・食道カンジダ症から血小板減少性紫斑病までの20項目。パート3はHIV感染症に合併したC型肝炎の管理から、HIV治療開始のガイドライン、HIV治療薬までの7項目。

● つまりエイズのすべてが漏れなく記載された教科書ではなく、臨床で疑問に思った最初に診てみる、まさに便利なハンドブックという位置づけです。便利さを追求するということは、今後も絶えず改良を重ねて成長が期待できると思います(!)。また照屋先生からも、誤植や不正確な記載など、気づいた点があったら連絡して欲しいと希望されています。

### <ご意見募集>

「AIDS UPDATE」は今後も不定期に発行します。ご意見やご希望がありましたら輸血部(5581)までお寄せ下さい。

[TAKATA, OE]

[nobotaka@hiroshima-u.ac.jp](mailto:nobotaka@hiroshima-u.ac.jp)